

「事例から学ぶ独居高齢者の緩和ケアと看取り」研修会



2019年11月28日(木)15時30分～17時30分 姫路市医師会館 大ホールにて、講師に**清水メディカルクリニック 副院長 在宅医療部門担当医師の清水 政克さん**をお迎えし、上記研修会を開催しました。多職種73名にご参加いただき、研修後のアンケート結果では、93%の方々が「研修会の内容に満足した」と回答されました。

最初に、清水さんが在宅診療を行っている地域の現状を説明後、「“病気になっても、一人暮らしでも、過ごしたい場所で最期まで過ごせる地域にすること”を目標として活動されている」とのお話がありました。

《在宅療養の ACP》

日々ACPの連続であり、“では、誰がACPを担うのか？”という点では、「誰でもいいのかもしれない。ただし、多職種での情報共有はしっかり行うべき。地域に帰ってきたら、看取り前の病状や気持ちの変化にとことん付き合う（寄り添う）覚悟を、多職種が持つことが大切です。」と話されました。

《看取りのコミュニケーション》

患者・家族からの問いや思いの表出は突然やってくることで、そして“なぜ、それをあなたに聞くのか？”については「“あなたに聴いてほしいから”、それに対して“おつらいですよね”と共感できる姿勢と多職種での関りが必要です。」と話されました。

また、本人の望む場所で最期を迎えられたか（救急搬送の有無）、警察の介入・検死の有無、等の視点で、看取りの成功事例・失敗事例とは何かを考えました。

講演中に、多職種と地域の連携でひとり暮らしの高齢者の看取りを行う寸劇「おひとり様でも、自分の家でピンピンコロリできるねんで！」のDVD鑑賞をしました。



ピンコロ劇団 寸劇 第2回公演 [36分]は、こちらからご覧になれます➡ <https://youtu.be/Xm0WMjuD704>

参加者の声（抜粋）

- ・独居看取りの問題点、注意点をよく理解できた。連携の重大性を再確認できた。独居で身寄りがなくても私たちケアスタッフが関わっていたら孤独死ではないという所が、そういう考え方もあるのか、と気づきことができました。
- ・今、まさに独居高齢者の空き家問題に直面しているのですが、相談できるところがなく困っています。ちょっと視点を変えて考えてみるいい機会になりました。
- ・チーム作りの大切さを日頃からとても感じているが難しい。専門職だけでなく、地域の人や消防、葬儀屋、様々な人との関わりも 大切だと思った。日頃から研修なども通じ、顔見知りになれる場への参加もしていきたい。